



外科医としての道を歩む

地方独立行政法人 広島市立病院機構 広島市立広島市民病院 外科 溝口 敬大

広島市民病院外科専攻医1年目の溝口敬大と申します。2024年度より広島市民病院で初期研修医として勤務し、今年度から外科専攻医として修練を行っております。

私が本格的に外科医を目指したきっかけは大学6年生の時の病院実習です。悪性腫瘍の困難症例に対し、術前からチームで綿密な準備をし、長年培った技術を駆使して手術を行う外科の先生の姿に感銘を受け、「自分もこんな医師になりたい」と外科医を志すようになりました。

私が大学に入学した当初は腹腔鏡と開腹手術が主流で学生の頃は特に開腹手術ばかり見学していたので、あまりロボット手術に触れる機会はありませんでした。しかし、いざ初期研修を始めると、悪性腫瘍の手術のほとんど（といったら過言かもしれませんが）は腹腔鏡またはロボットでの低侵襲手術で、開腹での手術はむしろ少数でした。そういったこともあり、研修医時代はなかなか術野に入ることができず、外からディスプレイに映し出された術野を眺めながら手術の勉強をするということも時々ありました。第3助手でも第4助手でもなんでも良いからとにかく開腹手術の術野に入って学ぶといったような当初描いていたものとは異なる日々の、大きなギャップを感じ、初期研修1年目には外科医になるのをやめた方が良いのではないかと悩む時期もありました。

外科医になるべきか悩んでいる中、初期研修医1年目の3月にもう一度外科をローテートするタイミングがありました。そこで、改めて手術、

病棟管理を中心にしっかり指導していただきました。そんな時に、外科の先生が年に一度あるかないかの珍しい疾患の緊急手術の相談を受けているところを目にしました。日々手術、診療に明け暮れて疲弊しているはずの先生が、手術時間が10時間を優に超える手術の相談を二つ返事で了承し、その日すぐ緊急手術となりました。私も術野に入らせていただきましたが、先生は疲れ一つ見せず、正確に一つ一つの手技を行っていました。そんな先生方の姿を見て、改めて自分は手術の内容だけでなく、外科医としての姿勢やプロフェッショナリズムに感銘を受けて外科医を志したということを再確認し、改めて外科医としての道を歩むことを決めました。

外科医として働き始めてまだ2ヵ月足らずで、毎日新しい問題に直面しては、ああでもないこうでもないと考えを巡らせる日々で、勤務中は落ち着く時間もないですが、毎日成長を感じながら充実した専攻医としての日々を送っております。最初はなかなか馴染めなかったロボット手術も、今は助手として少しずつできることを増やししながら手術手技の勉強をしております。日々の診療でも反省すべきことがまだまだありますが、先生方の指導のおかげでなんとか診療に取り組めております。まだまだ未熟ではございますが、自分の目指した外科医像を体現するために修練に励んでいきますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い致します。



Instagramを始めました。

広島県医師会や市区郡地区医師会の
イベント情報をお知らせしています。
フォローをお願いします。



広島県医師会
Instagram